



大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会

夏休み子どもの集い



8月21日(水)大東小学校において、大東塩田地域民生児童委員協議会と大東地区福祉委員会が共催し、子育て支援事業、健全な幼・少年育成の一環として大東小学校校区内の子どもたちに対し、友達と一緒に楽しいひとときを過ごすことにより、よき思い出づくりと仲間意識の向上及び多世代間の交流を図ることを目的に「夏休み子どもの集い」が開催されました。ラダーゲッター、モルックなどのゲームの他、竹トンボを飛ばしたり、紙飛行機飛ばしで楽しんだ後、ビンゴゲームで賞品をゲットして大いに盛り上がりました。



しん
テーマ 『神』～創ろう新しい織部の神話を～

令和6年度 **織部祭開催!**



心ひとつに
せ～の～で

「私たちの創り上げる織部祭が新たな歴史となり、神話のように語り継がれるものとなってほしい」という思いで、本校が持つ豊かな伝統を大切にしながらも、新しい時代にふさわしい革新を追求するという強い意志をテーマに込めました。



シナリオ・衣装から
拘わって皆で創り上げる
圧巻のステージパフォーマンス

ごあいさつ

大東地区女性振興会 会長 福本 初美



今年、大東地域交流センターに設置された巣塔で初めて3羽のコウノトリが巣立ちました。

皆で見守り、何か幸せを運んでくれるような気がしましたし、元気をもらいました。

今年より、大東地区女性振興会の会長に就任しました福本初美でございます。

新年度がスタートして5ヶ月が経過いたしました。まだまだ慣れず実感していない日々を過ごしています。大東地区へ嫁いでから40年余りが経ちますが、知らない事、気づかない事がたくさんあります。周りの方々に支えていただきながら、いつまでも住み続けたいと思えるような大東地区になるお手伝いが出来ればと願い、頑張っております。

前会長の光谷由紀子様同様、ご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

星空観察会

「わー、きれい」
交流センター屋上に天体観測施設が設置されています。そこに常置の望遠鏡や持ち込み電子望遠鏡などを使い、8月3日、天の川や夏の大三角形、また子どもたちもよく知っている北極星や北斗七星などを観察しました。

次回、10月3日(金)の19時以降、月の観察を含め秋の星空観察会を開催します。

参加自由

「つながりを育てる地域社会」に

大東地区連合自治会 会長 榎 静典

人口減少に伴うさまざまな問題について、ここ大東地区でも聞かれることが増えてきました。そこで、大東地区連合自治会としても、これからの地域づくりについて考える機会が設けられたらと考え、8月18日(日)に藤山 浩氏(持続可能な地域社会総合研究所所長)を招いて研修会を開きました。

藤山氏には「地元を創り直す時代 ～つながりを育てる地域社会～」という演題で、お話をいただきました。各自治会長のみなさんだけでなく大東地区振興会等からも希望参加者があったことは、これからの大東の姿・地域づくりに寄せるみなさんの関心が、とても高いのだと感じました。

講演では、まず大東地区の人口について現状分析から始まり将来予測を紹介していただきました。「40代の子連れ世帯の流入はあるが、10代後半～30代後半にかけての流出超過が大きいので、このまま何もしな

いでいると、人口の下げ止まりが見えてこない。」という指摘は、人口グラフをもとにした客観的分析であるだけに重い事実を示された気がしました。

しかし、その後に藤山氏自身が調査・研究された全国各地の地域づくりのたくさんの好事例はどれも「なるほど」と思うものが多かったです。持続可能な地域社会をつくるには、地域の「人」や「もの」・「こと」がつながりあった地域内循環の仕組みづくりが大切と感じました。大東地区で同じことはできないかもしれませんが、少なくとも未来への明るい希望をふくらませることができました。

この日の研修会は、「つながりを育てる地域社会」づくりに向けての小さな一歩だったかもしれませんが、しかし、ふるさと大東を守り育てていくために、他人事ではなく自分事としてとらえるための新たな視点や気づきを得ることができた研修会となりました。



この人に聞く



おかしろ しゅんすけ (グランデ)
岡城 俊介さん (51歳)

今回は、東京から大東に来て農業を通信教育と実体験をしながら田舎生活を楽しんでおられる岡城さんに聞きました。

東京から単身で大東に来て3ヶ月ほどになります。農林大学校と実体験を並行しながら農業を一から学んでいます。自然のままの地域(何も無い)がとても気に入っています。東京ではIT関係、特に上場企業を中心に業務システムや経営管理システムの構築に携わっていました。島根の企業でシステム関係の事でお困りのことがあれば、お声がけください。

Q) 自己紹介等お願いします。

岡山県倉敷市の美観地区出身で、福岡で就職して東京で20年働きました。家族は、東京にいます。今年6月に雲南市に来ました。

昨年7月出雲に家族旅行で来たときに良いところだと思い、今年3月出雲、松江、雲南市に行き話を聞きました。その中で、雲南市が断トツ良かった。

何も無いところ(昔の自然のまま)が雲南市ですという市職員に着飾らないご説明と地元の方がとても親切にしてください。ITの世界で30年勉強してきましたが、これまで知りえなかった世界、特に産業の基礎でもある農業を学びたいと思い大東に来ました。

先日東京から飛行機で出雲空港に戻ってきた際、虹がとても綺麗でそして太かったことに感動しました。それはこの街の水と空気がきれいな証拠だと思います。

Q) 住んでみて大東の良いところ、感想は？

町がきれいで、ゴミが落ちてない、また、小・中学生が見知らぬ私に挨拶をしてくれる。こんな体験に感動しました。逆に

驚いたことは近隣に飲食店や喫茶店が殆どないことでした。なのでこちらに来た当初は3食ローソンでした(笑)ほんと、皆さんはどこでご飯を食べているんだろうか?と思いましたよ。
…この地域はお家で食べる文化なんです…

Q) 今、取り組んでおられること、やってみたいことは？

今取り組んでいることは「土」づくりです。農業の根っこというか、作物以前の基礎をもっと学びたいと思っています。私は、それを「土」だと考えていて、どうすれば豊かな土に育つか、それを再現性のある方法で実現できれば誰でも豊かな土ができるのではないかと考えています。そして土づくりの楽しさや野菜本来のおいしさをこれから自分の子どもたちにも伝えていきたいと考えています。

野菜本来の美味しさといえば、先日福耳とうがらしとニンニクを頂いたんですね、それで家に帰ってニンニクを切ってみたら香りと汁が溢れてきてビックリしました。え?ニンニクってこんなに汁がでるんだっけ?スーパーのニンニクと全然違うじゃんって。野菜本来の色や美味しさを東京の人に知ってもらいたいですね。ちなみに東京ではこんな美味しいニンニクは食べられませんよ。東京ではお金を払えば世界中の料理が食べられますが、なかなか本物を食べる機会は少ないかもしれません。

昔と違い情報網と交通がとても発達しました。今や東京・出雲間が90分で移動できます。これは東京・名古屋間と同じです。東京から大阪に行くよりも出雲に行くほうが近いです。ぜひ多くの人に島根県の本物を堪能してもらいたいですね。

Q) 趣味は、好きなものは？

映画、本を読むこと、白ごはんと漬物

Q) 大東が今後どうあって欲しい？

大東の素晴らしい環境や文化は、このままであって欲しいです。ただ、大東の方の経験や知恵は貴重な財産だと思います。なんとかITを使ってこの経験や知恵をデータ化して次に世代に繋げたいですね。それが大東の更なる発展に繋がると思うので。

…畑で草を積んで堆肥を作成中とのこと、土づくりからはじめられてどんな野菜ができるか楽しみです!お話し有難うございました!…

にがおえて こんにちは!



(絵:大東町東町北 細田 滋)

島根県雲南警察署 大東駐在所 佐々木 将也さん(32歳)

大東地区のみなさんこんにちは!大東駐在所の佐々木将也といいます。今年の4月に雲南署・大東駐在所に赴任してまいりました。

平成27年に警察官を拝命し、これまでは松江警察署、出雲警察署を経て、昨年度までは隠岐郡西ノ島町の駐在所で勤務しておりました。

出身は江津市で3人兄弟の長男です。また、学生の頃は柔道をしていました。故郷である島根県が好きであり、島根県に貢献できる仕事をしたいという思いから警察官という道を選びました。

休日は、比較的インドアなのでプロ野球の試合を観たり、ゲームをしたりして過ごすことが多いです。体を動かすことも好きなので、筋トレや散歩もしています。

地区の皆様とは、日頃から防犯ボランティアの方々と合同パトロールなどを実施させていただいており、安全を守るための活動に協力いただいていることに深く感謝申し上げます。

また、9月には秋の全国交通安全運動9月21日(土)~9月30日(月)となっておりますので交通事故を1件でも減らせるように一層気を引き締めて業務にあたる所存です。皆様もぜひ車運転時の早めのライト点灯、自転車利用時のヘルメットの着用や反射材の着用など身近なところから意識していただきますようお願いいたします。

これからも皆様がより安心して暮らせるよう、精一杯務めてまいりたいと思います。引き続きどうぞよろしく申し上げます。

何かお困りごとなどありましたら、気軽にお声がけください。

…今年の暮れには、ご結婚の予定だそうですよ。おめでとうございます!🎉

✿ 暮らしと文化 ✿

大東高等女学校皇国農村学徒報国隊

西町 青木 愛治



(写真4-43) 満州における皇農隊員

広島原爆翌前日の8月5日付け『山陰中央新報』のオピニオン欄で「大東高等女学校皇国農村学徒報国隊」(以下「皇農隊」)の話題が取り上げられ、元大東高校教諭の故浜田孝志さんや町内にお住まいの高橋紀子さんにフォーカスしてかなり詳細な解説・論評がなされていたので、興味をもって読まれた方も多かったのではないかとと思う。

筆者も平成27(2015)年9月に、縁あって皇農隊の元隊員3名の方々から対面で直接経験談を伺う機会を与えていただいた。以下の記録はその折にお聞きしたお話のほんの一部ではあるが、理不尽な国策にもてあそばされた16歳前後の少女たちの過酷な体験に今一度思いをめぐらせていただき、終戦に至るまでに誰のどんな犠牲があったのかを改めて思い起こしていただければ幸いである。

昭和20(1945)年3月、その前年に5期生18名で結成されていた皇農隊に満州(現・中国東北部)への動員命令が下り、彼の地の島根県報国農場で半年間の予定で農産物の生産に従事することとなった。一部の保護者や教員らは反対したが、隊員たちは「食糧は十分にあるし、治安も日本の統治下だから大丈夫だ。」と説得されたという。

4月2日大東駅を出発し、途中博多港でゴザをかぶって野宿したりしながら、船や列車を乗り継いで同月22日の夕方報国農場に到着した。

そこで待ち受けていたのは事前の説明とはおおよそかけ離れたあまりに厳しい日々であった。宿舎は「豚小屋かしら」とささやきあったほどの粗末な泥壁の建物で、食堂は雨が降ると土間がぬかるみとなり、壁には壁面が黒くなるほど蠅が群がっていた。電灯はなくランプで明かりをともし暮らしであった。入浴は1週間に1度、洗濯も思うように出来なかった。水が足りず、炊事のご飯も

十分に洗えず、とき汁のまま炊き上げざるをえなかった。午前4時に起床、午前の農作業は6時から11時まで、午後の作業は3時から7時

までとなっていた。隊員たちは歯を食いしばって懸命に頑張ったが、「女学生は草を取らず苗を抜いてばかりいる。」などと嫌みを言われることも少なくなかった。

帰国を1か月後に控えた昭和20年8月、ソ連軍の侵攻により状況が急変し、農場からの退避を余儀なくされた。ソ連機の空襲を受けコーリャンという穀物畑に逃げ込んだりしながら、夜通し歩いたりして港までたどり着き、なんとか貨物船に乗ることができたものの、猛暑の中、灼熱の船底に押し込められ、喉が渇いて船の窓から川の泥水をすくって飲んだこともあった。

ハルピンに着くと他の避難民と共に収容所に送られ農作業を強要されたが、食事は朝晩の2食で、コーリャンがほんの数粒入った塩分の全くないおかゆだった。10月に入ると極寒・飢餓・重労働の三重苦で死者が続出するようになり、10月20日には仲間の一人も帰らぬ人となった。他の隊員たちはすぐに遺髪と爪を切り大切に保管した。

翌年の8月にやっと内地引揚命令が出て9月4日にハルピン駅を出発、途中で野宿もしながら、29日にコロ島から帰国の船で出港したものの玄界灘が大荒れとなり、船中で死者も出た。佐世保港入港後列車に乗り換え10月7日に益田駅に到着したが、大東の米と浜田の魚を持参して出迎えた大東高女の教員らは、ボロ切れ同然の服を身にまとい、栄養不足で見る影もなく変わり果てた高女生の姿にかけける言葉が出てこなかったという。



『うんなんしぜんはっけんマップ』の作品がブックカバーになりました!

この夏、雲南市立図書館では、奥出雲多根自然博物館とのコラボで「うんなんしぜんはっけんマップ」を開催しました。雲南市のおすすめの自然を絵・写真で募集して、各図書館にある手作りマップにはって共有するというみんなで作る展示でした。



そして、集まった絵・写真はブックカバーになりました! 図書館オリジナルデザインの背景に皆さんが見つけてくださった雲南市の自然がぎゅっとつまっています。

秋も深まっていき、読書にぴったりの季節がやってきます。大東図書館はもちろん、木次・加茂図書館でもブックカバーを配布しております。お気に入りのカバーを本にかけて読書の秋をお楽しみください!

おすすめ本のご紹介

『葉っぱ切り絵いきものずかん』

リト@葉っぱ切り絵/著 講談社 2024年発行

この本は、一枚の葉をキャンパスにして、ユーモラスで可愛らしいいきものたちを、繊細な切り絵で表現した作品を集めた図鑑です。



参加者募集

大人の社会見学

出雲村田製作所&山陰中央新報社 製作センターで見識を深めましょう

- 期 日：令和6年11月5日(火)
- 集合場所：JR出雲大東駅
- 時 間：集合9:15/解散16:30
- 参加費：2,500円
- 参加人数：25名(性別および年齢不問)
- 申し込み：10月15日(火)までに交流センターへ

詳細は別紙回覧文書をご覧ください

大東交流センター新企画

「出雲國風土記」探究会

- ～出雲國風土記とは?書かれている地名・産物・伝承について～
- 日 時：毎月第3(水) 【第1回】10月16日
【第2回】11月20日
【第3回】12月18日
- 時 間：19:30～21:00
- 場 所：大東地域交流センター

参加無料

大東交流センター TEL.43-2130